

浄土

十二月号



法然上人鑽仰会

昭和十年五月廿日 第三種郵便物認可
昭和二十四年四月二十八日 運輸省(特別授承認第三五二号)
昭和二十七年十一月二十五日 印刷
昭和二十七年十二月一日発行

第二十八卷

第十二号

新版ひめくり

心のあゆみ

A判

価格 七〇円

体裁 タテ 30 CM

割引 一〇部以上 一割

五〇部以上 一・五割引

百部以上 二割

送料 実費

(百部以上より無し)

修養ひめくり

B判

価格 一〇〇円

二四〇円

(一〇部以上より割引あり)

法然上人鑽仰会

東京都千代田区
飯田町1の21

振替 東京 8 2 1 8 7 電話 (332) 5 9 4 4

浄土トラクト

大正大学教授・文博 佐藤賢順 著

再版

信仰へのみちびき

B 六版・十六頁

定価十五円 二十円

目次

- 1、大慈悲の仏教
- 2、知性を超えて
- 3、美的情感を超えて
- 4、本願の不思議にて

- 5、すべてを包む愛
- 6、人生は信ずる心から
- 7、お導びきのままに

村瀬 秀雄 著

月影抄

御法語の果

二十部以上 五分引
五十部以上 一割引
百部以上 一・五割引
二百部以上 二割引

B 六版・十六頁
定価十五円 二十円

目次

- 1、上人のご日常(われ聖教を見ざる日なし)
- 2、浄土宗の意義(われ浄土宗をたつる心は)
- 3、道を求む(かくの如くして昨日もいたづらに暮れぬ)
- 4、決定の信(我は烏帽子もきぬ法然房也)
- 5、弥陀名号の功德(無礙光とは)
- 6、信仰のすがた(つみは十悪五逆のものも)
- 7、念仏を勧める(不軽大士の杖木瓦石を)
- 8、あとがき

申込先 法然上人鑽仰会

東京都千代田区飯田町一ノ二二

振替 東京 八二二八七番

浄土

十二月号

問ていはく、撰取の益をかうふる事は平生か、臨終かいかむ。答ていはく、平生の時なり。

法然上人御法語



中央アジア・トルファン(高昌)の古寺跡より発見された婦人像頭部。

浄土 十二月号 目次

特集

表紙 釈迦如来像(奈良・室生寺)

創価学会 青年部の課題……………竹中 信常……………(2)

座談会 創価学会の回顧と展望……………(5)

創価学会との問答一例……………(11)

三分間 法 話 しあわせに暮す土台……………北村 謙順……………(16)

紀行文 アメリカ旅行⑥……………佐藤 治子……………(18)

近代 高僧 伝 慧力湛忍……………大橋 俊雄……………(26)

扉の御法語……………(15)

表紙の写真……………(25)

聖語掲示板……………(14)

講話

浄土宗入門 完……………戸松 啓真……………(28)

——往生と念仏と現世——

編集後記……………(33)

創価学会

とはどのようなものでありましょ
うか。またそれが今後どのような
方向に向って行くものでありましょ
うか。このような意図で、本号に特集をすることに致
しました。これを一つの基点としまして、新
宗教を考えなおすこともよいかと思ひます。

創価学会 青年部の課題

竹 中 信 常



創価学会で今一番問題になっているのは、政界進出の問題
墓地問題、それに内部的な青年部の問題等があると思ひます
が、今回はその最後の問題にのみ話しをとどめます。

創価学会の宗教教団として本質的な問題は、なぜあのよう
に急速に延びていったかと言うことと、会員自体に、あのよ
うな非常に強烈な折伏精神というものがあるかということ
であります。換言すれば、いかにしてあれまでにしたかと言う

問題であります。これは、宗教を考える場合に、墓地問題、
選挙問題よりも本質的なものとして、とり上げなければなり
ません。これに対しては、いろいろな部面から、結論に似た
ようなものは出ているようですが、しかし統合した意見とい
うものは出ていないのです。これをまとめようとするのが、
我々の目下摸索しているのですが、要するに折伏精神のバツ
クボーンがどこにあるかと言うことです。

教義的に言うならば、法華經の不惜身命の精神と言うか、教えと言うか、それにあるわけです。正法を広めるためには、自分の身命を捨てても惜まないと言うことです。藥王菩薩本地品の中で、宿王戲菩薩が、自分の身を焼いて仏を供養した、こういった非常に、普通の仏教の概念では考えられないような凄惨な表現をして、捨身供養をしなくてはならないと言うのが、このバックボーンになっています。

これと、さらに創価学会青年部の軍隊組織とが、非常にうまくマッチしていると言うことであります。イデオロギーと組織がうまくマッチしたところに、青年部の連中がもっている戦闘精神が出て来ています。

さらに正法を弘めるといふ大儀名分を、人間の上に具体化していったところに、『釈尊脱仏、日蓮本仏』の思想が出て来るのであります。お釈迦様はもう用のない脱けがらで、久遠実成の本仏は、日蓮上人ただ一人であるといふ大儀名分ができ、そこに、日蓮上人の命令だから命を投げ捨てても、日蓮正宗の教務を弘めるのだ、そのためには、軍隊組織の上ののっている我々は、その全力を掲げなくてはならない、と集言うことになります。

特 この釈尊脱仏の問題は、論義のあるところで、教理学的にも非常に問題があるところでありますが、論理的に追求して

行きますと、釈尊には用がない、日蓮上人が末世の久遠実成の本仏だとするのだと言うことになります。さらにこの理論を進めて行きますと、将来においては、否、将来でなく、すでに彼らが言っていることは、初代の牧口会長、二代の戸田会長にしても、すでに日蓮上人の生れかわりだと言うことを公言しているようであります。そうすると、我々の観点からいたしますと、すでに日蓮上人も脱仏してしまっているといふことです。現在では、池田会長が久遠実成の本仏である、その仮身であるということになります。

宗教で一番大切なその対象が、そのような生きた人間であったり、生きた人神的存在であるときには、それはファシズムにつらなる問題になるのであります。青年部の連中と話した時に、池田会長は人間なのだから間違いはするだろうし、会長の言うこと全部を真実だと信じているのかと質問したところ、そういう質問自体が池田会長の侮辱することだ、彼は日蓮上人の生れかわりだから、間違ったことはない、我々は会長の命令を絶対のものとして、柔順に従っていくのだ、と言うことを言っていました。ここに恐るべきファシズム的すがたが、ありありと見い出せるのであります。

従って、釈尊脱仏と言うことは教義上でも問題になります。が、前述の社会思想の上から言っても、会長絶対主義という

ことになって参りますと、いわゆるヒトラーやムッソリーニを絶対と言った、かつての民族ファシズムにならないとも限らないのでありまして、現になりかけていることに注目する必要があると思われれます。

逆に、創価学会で会長を日蓮上人の生れかわり、本仏であるとかまで信じさせたことが、青年部のあの戦闘精神をささえていると言うことができますし、それが大きなバックボーンではないかと言えます。なぜそこまで育てあげてきたか、これは個人的な問題であります。戸田会長が血気の多い連中を上手にぎゅうじっていく、天才的手腕を持っていたと言うことができます。池田会長も、いわゆる理事から会長に選挙されたうらには、青年部を彼がぎゅうじっていたからであり、それだけ青年部のウェイトが強いということが言えるのであります。

再びくりかえしますと、そういったところに、青年部と池田会長との結びつき、それがさらに敷衍して、一応本仏主義、それがさらに発展して、ファシズムと言うことになってくる。これが創価学会の折伏精神のバックボーンになってい

集ると同時に、創価学会の命とりになってくるのではないかと
特 思われれます。彼らの中にも批判的な人はいますし、年配で、
相当温健な考え方を持っている人もいます。そういう人達

が、いつまでああいった池田会長の放言なり、傲慢な態度を認めていくかと言うことには、問題があるのではないかと思えます。そういうした場合に、動揺するのは青年部で、現に青年部自体、内部批判を行っているということは、情報として流れてきています。

こういうわけで、折伏精神、戦闘精神のバックボーンは青年部にあり、その軍隊組織と会長絶対主義にあると言うことは、世論の目するところであります。

最後に一既成教団人として言いたいことは、すなわち我々の直面している問題は、*「自信教人信」*であって、自分自身の不惜身命の信念さえもっていれば、例えば浄土宗であれば、念仏信仰にすじを一本通して行くことであります。この一人一人の完全な宗教的任務が累積されていけば、理論的見地から言っても、こういった非宗教的な創価学会のはびこる余地はなかったはずであります。このことはとりもなおさず、既成教団のウィーク・ポイントであり、間隙であったと言うよりほかはないのであります。

（講演の一部分を結合して
掲載させていただきます）
文責在記者。

座 談 会

創・価・学・会・の・回・顧・と・展・望



出席者 (写真左より)

佐藤密雄	(大正大学教授・文博)
竹中信常	(大正大学教授・文博)
白幡憲佑	(中外日報神奈川支局長)
轟照次	(中外日報記者) (敬称略)

なぜ政界に進出するか

S 創価学会の政界進出前後の状況と云ったものですが、政界の進出と言いましてもこの前の選挙が初めての政界への進出ではなくて、何度かの参院選挙を中心としてその他の選挙があり、それに創価学会からの候補がでておりますが、なぜ政界に進出をし、どうして出なくてはならなかったか、又、それが創価学会の青年部あたりの力なのか、そのへんについて一つお話を聞きたいのですが。

A 先ず政界に出たと言うことは、前からいってますが、学会のいう例の「日蓮正宗が唯一の正しい宗教である、その正しい宗教を広めた上で、初めてこの世に平和がくる。それを達成するには、先ず国教にしなければならない(国教という言葉は使っていないが、昔、死んだ戸田城聖がいったことがある)」と

いうことに依るのですね。近頃は言わなくなりましたが、結局それと同じように、国立戒壇が第一目標で、それで政界進出ということをやっている。

昔、国立戒壇というと、天皇の勅令をもらってたてるといったのですが、主権在民になっては、国民の代表になって国立戒壇と言うのでしょうか。とくに七月の選挙のとき、会長は国立戒壇ということを一言もいわないし、国教にするということも否定的な言葉を一寸のべていたが、小平芳平(教学部長)が、この間『宗教公論』(九月号)にのべているように、本当は国立戒壇を最終の目的にしている。

B 戒壇という考えについて彼らがどのように考えているのであろうか、それがはっきりせず困っている。

戒壇と言うのは、専門の宗教家、つまり昔で言えば、税金のかからない、お上から自由

集

特

な身分を得るということ、度牒を得るということ、中国では度牒を買ったわけだ。お金を出して僧籍を買えば、お上の仕事もしなくていいし、税金を納めなくてもいい。日本でも年分度者と言って、お前のところは何人だ

け僧籍を人に与えることを許すということなんだから、それを獲得するのが戒壇の意味なんだ。

だから、人民の宗教をアーするとかコーするとかいう問題にはかわりのないことだ。

S 今度は七月の参院選挙で初めて、いわゆる公明政治連盟(創価学会外郭政治団体)、公明会をつくりましたが、参院選の前二回の



白 幡 氏

体的政策はなかった。要するに是々非々でゆく。いわば中間的にいく。それと言うのは彼らが参院を中心にして、衆院を狙わないという一つの公約がある。というのは、あくまでも我々は宗教家なのだから、職域を通じて政治に関心をよせ、衆院のように直接政治にタッチすべきではないという大義名分ですよ、——今までは。しかし衆院に出るようになるまでは続けるでしょう。

そういった立場からいくと、宗教家ということが根本テーゼになっている。だから政策的には右にも左にもよれない。いわゆる中道主義を採る。しかし、現実的には初期に自民党と結びつき、今度は政策的に社会党左派に近づいているけれども、選挙の結果、むしろ逆に社会党、共産党が目のかたきになっている。そうするとそれが政策的にも反映してくる。結局公政連というものが政策を打ちたてるとすれば、独自のものをたてなくてはならぬ。そこで今回に限って、小平氏がいつているようなこと、すなわち従来背後に隠されていた具体的政策をいやおうなしに出さなくてはならなくなってきた。

さらに前の参院、地方選などでは立候補者も自民党的なものが多かったが、今度は政策的に社会党と同じような考え方を出示してきたが、このへんを。

C 柏原やすが最高点で当選したとき、具

傾向的には、格好上社会主義的であるけれども、依然として物の考え方自体、保守ですよ。

最後にいおうと思っていたのですが、創価学会は宗教の限界を乗り越えており、もう宗教団体ではないですね。

S 体質改善という点について

A 創価学会は作戦を変えるのがうまくいわれる。私がそれを担当するようになってから四年くらいしかたっていませんが、この選挙を境にして、ぐっと変わってきていると思います。例えば、公政連ができてから、選挙を終え、選挙で四一〇万くらい獲得して、その人たちが新派になったのです。そして、その人たちを教学で信者にしようというわけ

で、十月初めだと思いますが、公政連の全国大会のとき、その組織を拡大するために、各都道府県単位で支部を作ることになったのです。今までは会員出身の議員で支部を作っていたのですが、今では、公政連の動き方にも賛成したものは誰でも入れるようにしています。

S 政策と現実面に矛盾をもった学会は傾向的にはどのようにいくのでしょうか

B ある種の社会主義的にいくとしてもヒ



森 氏

ットラーのように変わるものであろう。ファシズムと同じ傾向にいくのではないかと思うし、ナチスが大きくなってきた過程を丁度創価学会が歩んできているのではないか。

S 政界進出の最後として、衆院に出る可能性は考えられますか。

A 将来その可能性はあると思います。とくに統一地方選挙のときに、だいたい一二〇〇人くらいの議員を出すことになっていますし、この前の公政連の全国大会で会長がじきじきにやったわけですから、公政連の組織の拡大ということにして増し、その次にもっていく?……。地方の議員組織を厚くして、その上ではじめて可能性を見出したときに、出るのではないですか。

アピールする理由

戦に変わって来たのです。それは今まで頭けなしにやっていたのもよいが、それより相手の話を聞きながらの方がより効果的だし、又内部からの突き上げもあったのではないかと

S どういう点に彼らは惹かれるのでしょうか。

も思われる。

B 教育をあまり受けていない者、環境的にめくまれない者、そういう人達が段階的に講師になり、助教授になり、教授になれるというのが一つの魅力になって、勉強しようと

集

特

それから学会員が今までのように、お坊さ

いう意欲にかきたてられる。日蓮の信仰を通してというのではなくて、そのようなものを通して、というのが多いのではないかと思う。

C 話が多少変わりますが、ファシズムの問題、青年の魅力の問題、それにもう少し考えてみますと、社会の近代化の問題です。要するに、個人の社会概念の考え方が変わって来たわけです。マス・コミなどという語がでくると同じように、個人が組織に干渉される。組織にのらなくては、個人の存在価値がなくなってきた。そういうものが、創価学会の整然とした組織にマッチしているんですよ。逆にいえば、それをいち早く採り入れたともいえる。

S 大石寺にお参りして、何か感銘を与えられるというようなものがありますかね。

A 私は日蓮正宗の信仰心がないからかも知れませんが、あまり感銘はありませんでした。よく学会の幹部はいうのですが、今の若い者は何のために生きているのかを知らない。ただ創価学会に入れば、国を救い、世界を平和にする国土になる。例の国土軍ですね。

B イスラエルの人が何といってもあの神に倅守るのが、人間としての意義というようなものに相当したが、かつての我々の伊勢神宮であつた。今その伊勢神宮がなくなつたのではないかな。だから伊勢神宮的なものを与えるというのではないかな。

S 創価学会員が大石寺にお参りすると、

A 組織の上からいくと二本立なのです。折伏したのと折伏されたのとの関係が第一で、AがBを折伏した、BがC折伏をしたとする。そういうのがたての線で、いわゆる支部というのがある。例えば、大阪の人が北海道の人を折伏し、その北海道の人が九州の人を折伏したならば、それは全部同じ支部なのです。

S 二頭的な行き方をするのですか。

A 三十年頃の資金源は、財務部員だったので、年額四千万で、約五万人くらいいたんです。その後発表がないのですが、何かやると金は動きますから、十方は軽く越して



竹中氏

一方よこの線はブロック制で、地域的になっている。これが成功している。

C 佼成会もそうだし、霊友会もそうですね。今は組かえつつあるのが現状です。

S 支部長だとか部隊長とかになると、それ専門にかかりきっているのですか。

A 支部長はそれほど仕事はないのですが、部隊長あたりになると他の仕事はできないのではないかと思います。

S 経済問題は全く秘密なんですね。

A 三十年頃の資金源は、財務部員だったので、年額四千万で、約五万人くらいいたんです。その後発表がないのですが、何かやると金は動きますから、十方は軽く越して

るのではないかと思います。

C こういう話を聞いたのですが、一軒の家が全部信者になった場合、その家に青年部の幹部がいると、今日は講習会がある、どこに行かねばならない、などとなると、まともな勤めはできないわけです。すると、家中のおやじさんも娘さんも、みんなで、うちの兄ちゃんも青年部の幹部だから働かなくてもいい、私達が援助するからといって、みんなが協力して一人を出す。そのような舞台裏がある。

S 学会でも、そのような教育をしているのでしょうか。

C とに角、青年部員などというものは学会の最尖端なのだから、全員が支持しなくてはならないくらいいいほうでしょう。

A 強信者というか、それをバックアップしなくてはならんと言う教育はやっている。

集 これからの墓地問題

S 墓地問題について、創価学会の新しい方向転換などがありますか。

A 裁判の結果解決しよう言うような考え

はないのではないかと思います。今度議員達が出て、彼らがそれをやるかと言えばやりそうもない。それでも国会に墓地対策委員会というようなものを作って、墓地を宗派から切り離したような共同墓地を作って、解決しようと言うような考え方は持っているようです。

B 天理教も固定してくると、やがて自分



佐藤氏

その後、大石寺に大きな納骨堂を建てましたし、毎年十カ寺くらい日蓮正宗のお寺を持ちそこで納骨堂とか墓地を造っておりますが、しかし会自体として大きな墓地を持つのかと言え、どうも持ちそうにない。

と言うのは、埼玉のさる墓地に学会員が墓地を売ってくれたと言ったわけです。ところが会員個人では売れないから、会自身で買うならば売ると言うのです。そこで私の方に相談が来たので、早速そちらの副理事長のところへ連絡したのです。そうしたら、それは個人が勝手にやればいいのであって、本部は知らん、ということ言うのです。

しかし中には、大きな墓地を買って欲しいと言う下の方の意見はあるわけです。

S まだ墓地を中心にして、既成教団とぶつかると言うことはありませんか。

A 今までのようなケースが出てくるかどうか。

B 創価学会は死んだ人にはあまり関心はないのだ。

S その点既成教団は学会にうまく利用されたと思うのです。既成教団は死んだ者ばかり

りで、我々は生きた者を救うんだからと言うように、非常にうまく塗りかえられてたたかれていますと思うのですが。

C ところが又逆なんだ。生きている者を相手にしているのだが、それでは間に合わなくなってきた。歴史が新しいと会員の死ぬ率は少なくなってきた。ところが、大きくなってくればどんどん死んでくる。現実にお骨をどうするかと言う問題が出てくる。

それがこの頃出て来ている。そうすると、今までみたいに死んだ者ばかり相手にしているとっていばっておれなくなる。お葬式もすれば強制埋葬もする。

しかし、これからは今までのように強制埋葬と言うようなことはなくなるだろうし、お互に軟化してきた。

S 具体的対策としては。

C 不断協力しないで、ただ墓地だけ置くのなら、レッキとした管理料をとることです。

特

創価学会こそ邪教である

S 最後に、創価学会の逆折伏を。

C 先日お説教に行ったとき、次のことを言ったのです。「他人のぼた餅は大きく見える。他人の女房は美人に見える。自分が念仏という菓子を持っていて、それを食べもしないで他人の題目を唱える必要はない」と。とに角、だまされたと思って念仏を朝から晩まで三日間称えてみなさい、もし称えられないと言ったら和尚さんが一しよにやってやるのですね。

今や創価学会も下火になっている。そればかりをとにかく言うのではないが、もう創価学会の信者と言えば皆んなが知っている。あれはうるさくてしょうがないと言うのが大部分ですよ。初期は、一体どんなものだろうと思っけて入った者が、もうあれはああ言うものだと言うことがわかってくると、受ける方の態度が出来てきている。

S 十年以上も前から創価学会と言われているけれども、それほど檀家の減ったと言う話も聞かないですが。

A 東北の方でもお寺さんは安心してますね。農家には入れない。もし入ったら他から村八分みたいにされる。

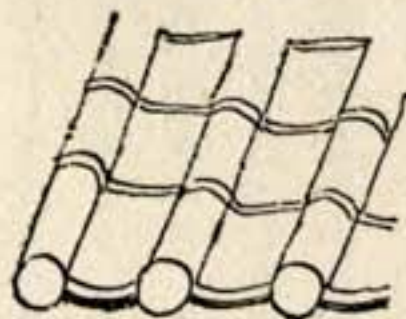
C 北海道もその傾向ですね。

B 現世的利益とか、病気が癒るとか、そう言ったような目の前のことにひかれ、なんにもそんなことに関係のないところに、真実の信仰があるのだ。それに入っておれば自らそれが解決されるというものが、本当の宗教であり、浄土教なのである。

借金があるから、ここに入っておれば商売が繁昌して借金がなくなるとか、そのようなことを動機として入らねばならないような宗教は間違っている。だから、そんなことには何のかかわりもない、本当の宗教、浄土教を信ずることです。

S どうも有難うございました。

銅瓦 屋根 専門



石黒工業

東京都文京区水道橋15番
電話 (812) 1551

銅葺なら
赫々たる定評ある
当工業へ是非ご照会を

その一

ある信徒の迷い

学的なことは信仰することが出来るものか、
万更でもないと思ひながら喜んでゐる矢先
といつて入信のすすめを拒否してしまひまし
き、今度は子供が交通事故をおこしてしまつ
たのです。早速幹部に相談にいったところ、

「私の家は代々浄土宗の檀家ですが、ある

ところが、いくら断つても毎日のようにす

「まだ、信心が足らない。信心とは邪教を

時事業に失敗するし、色々の重なる不幸に見
舞れみじめな生活のどん底暮らしをしていた
ら、「あなたは今まで邪教を信じていたの
で、いくら努力しても運が向いてこないの
だ。このおまんたらを拝めば、必ず幸福な生
活をすることが出来る。」とすすめられまし
た。最初そんなバカげたことがあるもんか、
信心することによって病氣からのがれられ、
経済的に恵まれてしあわせになるなんて非科
と、溺れるもの薬をもつかむの気持ちで半
信半疑ながら、お仏壇の先祖の位牌をかたず
け、おまんたらを真中にかざり朝夕一生けん
めいおまいりいたしました。ところが、その
効果かどうか分かりませんが、色々と生活の
条件がうまく運び、今迄の貧しい生活が上向
いて徐々に暮らしが豊かになってきました。
あ、ありがたい……」というのです。
私は、この幹部のはなしを聞いてあらたな
疑問がおこりました。それは、交通事故は、

創価学会との問答一例

編集部

大部分不注意からおこるものだ、それを直ちに信心と結びつけることが出来るだろうか。しかも信心していたから、ケガ程度ですんだが、そうでなければ死ぬという云い方は、もつとも人間の弱い面である生命問題に結びつけることは、ヒレツきわまることだ。真実の宗教とはそんなものでよいのだろうか、ということです。そんな疑問をもっていたとき、偶々菩提寺の和尚さんがみえられ、そのお話をいたしました。

すると、和尚さんは、つぎのようにお話をして下さいました。

あなたは、幸い冷静さを保つ教養を身につけておられるから、そのような疑問をもつことが出来た。そうでないと、結局するずる引きずり込まれてどうにもなくなる。正常な神経をもっているものでも、あの組織の中で狂信化していくのである。

集 およそ迷信といわれるような宗教が発生する基盤を考えてみると、大きく三つに分けることができる。一に、一般に科学的教養が乏しいこと、二に、宗教についての正しい理解が欠けていること、三に、こういう欠陥を生

み出す社会的歴史的な条件がまだに残っていること等である、たとえば、いかなる宗教も神とか仏とかという超越的な宗教的実在を主張しているが、その説き方や受けとり方によつては深い意義のある教えも、不合理なものとしてうとんぜられるおそれがある。宗教に対する欠如ということが問題になる。さらに、正しい意味で宗教と名づけられない迷信的なものを信じているのは低俗な無知識階級ばかりでなく、一応近代の教養を身につけた社会的地位のあるような人々もしばしば見受ける。これは何故かというところ、おそらくこういう人々は、宗教の本質を見届けることができず、道徳的な現実的な利益に目をくらませ、迷信に引かれ易いのである。つまり現実的知識の偏重という時代の中で、批判力が失われた結果ともいえる。そこには、宗教と科学との疑問があり、同時に、一種の快樂主義的人生観が横たわっているとみられる。

このような時に、正しい人生観、宗教観を学ぶことが非常に大事だと思った。

戦争のあとに迷信が流行することは、日本だけの問題でなく、世界共通の現象のようであるが、しかし、わが国ほど多種多様な、しかも低級な迷信の流行している国は近代国家としてはめずらしいことといえよう。

やはり、これはまた日本には前近代的要素が多分に伏在していることを意味する。これは、一般民衆とそれを指導する宗教家達の知恵によつて是正していく必要がある。

その二

ある浄土宗寺院住職と

創価学会会員との問答

学会員「われわれが命にかけた本尊をなぜうばったのか」

寺院「この寺の檀家の宗教問題については住職は重大な責任がある。本人の依頼によつて預つてきた。それより君達は勝手に仏像や先祖の位牌を焼くとはいかにした事か」学会員「わが学会は一切の邪念をすてるために他宗派を否定するのだ。日蓮正宗以外の仏像や経典は、単なる紙や木で形をつくつただけのもので、何の価値もない。われわれの板本尊こそ絶体のものである」

寺院「それはわが仏のみ尊しとする自分勝手な偏狭な考え方で、仏教の本質を知らないからだ。」

学会員「浄土宗は権教で、念仏の法は方便部の教だ。だから方便で仮のものだ。」

寺院「方便部は直ちに権教とはいわれない。

大乘の經典はそれぞれの立場において真実がある。五時教判に一応五時に分けているが、時間的に一定の前後はないはずだ。」

学会員「無量寿經」に「四十余年来顕真実」とあり「法華」より真実はない。」

寺院「時を説きあかす場合に、仮時（三摩耶）と実時（迦羅）とある。実時は外道の談ずるもので浄土三部經も法華經もはじめは「如是我聞」とはじまり「一時仏在王舍城」とつづく、あの「一時」は仮時でサムタイム（some time）の意味で、何年何月の実時を意味するものではない。」

学会員「ではなぜ釈迦は「四十余年来顕真実」といわれたか」

寺院「釈尊はその機に応じて法を説くのである。特に大乘經典の場合は、海印三昧、無量義処三昧、弥陀三昧、等自來禪定に入っ

て説かれた。だから何の經にもこの經こそ真実であると説かれた。あなた方は青年だから頼もしい美青年といわれたとしても、それは君達だけに云う言葉でない。」

学会員「末法の時代には念仏は役に立たない。唯日蓮大聖人の教えられた法華經のみが唯一絶対のものである。」

寺院「法華經」というが、阿弥陀仏と無関係ではない。「藥王品第二十三」に「若し如来滅后、後の五百歳の中に、若女人あり

て是の經典を聞いて説の如く修行せば、ここに於て命終して、即ち、安樂世界の阿弥陀仏の大菩薩衆の圍繞せる住処に往き、蓮華の中の宝座の上に生ぜん。復貪欲に悩まれじ。……菩薩の神通、無生法忍を得ん。」とある。

また、板まんたらに名前がみえる天台大師の「摩訶止観」に「諸經に讚する所、多く弥陀に在り」と説いているではないか。」

学会員「弥陀に三身あるはずだ。「法華經」

浄土トラクト

葵　ぐ　さ

——御法語の栞り（その2）——

村　瀬　秀　雄　著

目　次

一、自身は凡夫なり（わが身わろしとて）	一
二、漫心は悪魔に同じ（わがちからにて往生する事ならば）	四
三、念仏に差別なし（あの阿波介も）	六
四、罪人ながら往生す（罪人は罪人ながら）	八
五、生涯弛まむ努力（ある時の給はく、あはれ此度）	十
六、念仏のご利益（およそ五種の嘉譽を）	十二
七、学生と念仏（学生骨となりて）	十四
八、あとがき	十六

◆ 聖 語 掲 示 板 ◆

阿弥陀仏の御誓には、
有智無智をもえらばず、
持戒破戒をもきらはず、
仏前仏後の衆生をもえらばず、
在家出家の人をもきらはず。
念仏往生の誓願は、
平等の慈悲に住して発し給ひたる事にて候へば、
人をきらふ事は全く候はぬなり。

に説かれている弥陀と「阿弥陀仏」の弥陀と別人であろう。」

寺院「それは法報応の三身で、一切の仏にはそれぞれこの三身が具足されている。阿弥陀仏にも亦この三身があり、仏身をその格位によって三種に分けたもので、別人をいうのではない。」

学会員「大聖人は念仏者は無間地獄に落ちるといわれた」

寺院「四個格言の念仏無間は日蓮上人が勝手にいっていることで、他宗をそのように誹

謗しなければ当時の民衆に受け入れられなかったということは、それだけ日蓮上人に弱さがあったということだ。「法華経」のどこに念仏無間とあるのか」

学会員「法然の「選択集」に「法華」を難行道といい、「捨てよ、閉じよ、闇き、抛て」と誹謗している。念仏のみ易行道とは何事だ。「法華経」第二に「若し人この経を信ぜずして毀謗せば、其の人命終るの時、阿鼻地獄に入る」と説いてあるぞ。」

寺院「それは「選択集」に「善導和尚、正雑二行を立てて、雑行を捨て正行に帰するの文」(巻上「二行章」)「随他の前には暫らく定散の門を開くと雖も、随自の後には定散の門を閉す」(巻下、念仏付属の文)「夫れ速かに生死を離れんと欲わば、二種の勝法の中に、且らく聖道門を闇きて選びて浄土門に入れ。浄土門に入らんと欲わば、正・雑二行の中に且らく諸の雑行を抛ちて選びて正行に帰すべし」(巻下「三選章」の中にみえる「捨閉闇抛」をいうのである)が、この文をよくかみしめ文字にとらわれず、法然上人の意を知れ。「且らく諸の雑行を抛ちて選びて正行に帰すべし」と「且らく」と前置きがあるではないか。これは法然上人の宗教体験から申されたことで「聖道門で救われて行く者もいるけれ共」と一応肯定してその上で、自分は且らくその道に従わないと申された迄のことと誹謗の言葉ではない。法の問題でなく機根の問題であり、この末法に現に生きているこの私達の問題である。

扉の御法語

問ていはく、摂取の益をかうふる事は、平生か、臨終かいかわ。答ていはく、平生の時なり。そのゆへは、往生の心まことにてわが身をうたがう事なくて、来迎をまつ人は、これ三心具足の念仏申す人なり。この三心具足しぬれば、かならず極楽にうまるという事は観經の説なり。かかる心ざしある人を、阿弥陀仏は八万四千の光明をはなちててらし給ふ也。平生の時てらしはじめ、最後まで捨給はぬなり。かるが故に不捨の誓約と申す也。(念仏往生要義問答)

ある人が尋ねました。「あみださまが、お念仏を申す衆生を収め救つて下さるというが、このご利益は平生でもあるのか、それとも臨終の時にこそ来迎下さることをいうのか」すると上人は言下に「平常の時なり」と申されました。つまりあみださまの光明は、念仏行者に對して平時からてらし、その人の臨終の際までてらし続けるというのです。

また上人は「本願を信じて念仏申さば、一

念須臾のあいだに、阿弥陀ほとけの来迎にあづかるべき也」と申されています。どんな愚かな人でも、どんなに罪深い人でも、お念仏を申せばすぐさま来迎があるというのです。だからあみださまのお救いが、臨終や死後のことでなく、平生のことであるのは当然というべきでしょう。あみださまのご来迎といえは臨終の時にいただくものと考えられています。これは往生と死を同じことに使

二義を具へたる事を。かの阿弥陀仏の一切の徳の中には寿命を本と爲し、而して光明勝れたるが故なり」と申されています。つまり本体は無量の寿命であるが、それが八万四千の光明となって現われているのです。

しかし實際は簡単な問題ではありません。いかに上人が「善惡をへだてず、持戒破戒をきらず、在家出家をもえらばず、有智無智をも論ぜず」と申されても、いかにも愚かしく、頭の中には悪いことばかりが渦をまいていたのでは、せめて臨終の時なりとご来迎を思うようになります。しかし改めて素直にあみださまの救済は平生の時にあると、上人のお詞をそのまま拝したいものです。

光明には十二の特色が数えられています。太陽や月、燈燭等の光と全く違うことはいまでもありません。この十二の特色についての上人のお詞を要約すれば、この光明は無量であり無辺であり、何物もさえぎることができないばかりでなく、「凡そ此の光に触るる者はかの二貪を除く」とされ、姪貪、財貪の人も持戒清浄の人と同じことになるといわれています。また怒り易く憎み易い人も、この光に触れば忍耐強い人となり、愚痴の者ならば、その煩惱を滅して智者と同じこととなることができます。

もう一つ大切なことは、あみださまの救済は、八万四千の光明となって放たれているということです。上人はあみださまについて、「ここに知る、名号の中には光明と寿命との

両親が健在の内は、親の慈悲に気がつきませんし、また強いて判る必要もありません。それと同様に念仏行者は、自分が持戒清浄の人と同じになった等と思うことは要りませんし、ただあみださまの光明によくし、それに摂取されることをねがうだけであります。

しあわせに暮す土台

北村 謙 順

(神奈川・西念寺 住職)

本日は、皆様大勢御参拝有りがとう存じます。今日のようなおつとめを、昔から「法事」と申してつとめて参りました。わけて申しますと法の事ということになります。法というのは、法律と申しますように、人がお互に生きて行く上に必要なきまりのことを指します。それがないとお互にこまる。そこできまりをつくる。それが法律でございましょう。さてそれでは、法事の法は、どんなきまりでございましょうか。これは仏の法、つまり仏の示された法であります。私共の生き方の根——土台となる法であります。それによつてお互が正しい^{しあわせ}幸な道を生きて行くことが出来る。その法であります。

例えば本日の法事を考えて見ますと、法事をやって人を招くことは、正直なところ、お

金がかかります。もし、こんなことにお金を使うのは、おいしい、と思われたら、法事は出来ません。今日は親の年回だという思いで親にささげる供養の心をもたれてこそ法事がつとまるのでございます。当主のことを、施主と申すではありませんか。ほどこす心、喜んで捧げる心の現れが法事であります。

亦、経済的なことばかりではありません。

精神的な面に於ても仏法の事が出て来るのでございます。人よせというものは、仲々苦勞の多い大変な事です。奥さんが大変だ大変だと申しておられたら、いかなる御主人でも法事は出来すまい。奥さんが、喜んでやつて上げましょうよといつて自分の苦勞を忘れて陣頭に立たれるところから法事が出来て来るのであります。それからお集りの皆さ

ん方が、一日暇をつぶすのは勿体ないということでおいでにならねば、法事は出来すまいか。みなさん何と云つて先程挨拶をしておられましたか。「よくおつとめになられました」と殆どの人が云つておられます。よくつとめられると気持よく万難を排してお出でになる。それで法事になる。だから法事でケンカなどをするのは法事ではありません。

施主は供養の心に住して本日を迎え、家内一同喜んで力を合せて働き、有縁の皆さんも亦こころよく集られる。これ皆、仏法の現われなのです。法事と申す意味はここにあるのでございます。

平生は、ともすると我儘勝手がお互に出たり、つまらぬ意地を張り合つたりもする私共ではあるけれども、せめて親の年回のその日は、きれいな気持で、すべてを御親の冥福のためにささげさせて頂きましょうというのが、施主をはじめ皆様の心持でありましょう。そこから、ほどこすことのよろこび、力を合せた事の尊さ、和やかに集り得た気持よさ、を皆さんは学び取つておられるのであります。これが法事なのです。仏法に生きた姿

です。生き方の大事な正しい姿を汲み取っておられるのであります。然もそれが御自分の功德となさらずに、すべて御親にささげられ、ふりむけられていることが亦尊い仏の法なのであります。

世間では、仏の法の真意が充分に受けとれないばかりに、家の中が愈むずかしく、毎日どれだけ苦勞をしている方々があるか分らないのでありますが、私共にとりましてまことに悲しいことであります。

ある家のお嬢さんが、夕方 外から帰って来ると、乾いているはずの洗濯物が濡れております。これを見てどう思ったかという点が大事なのですが、「これは私の洗濯の仕方が悪いので、氣に入らないで、誰か洗い直したにちがいない」と思ったのです。その洗濯物はその家の弟さんのシャツであったのですが、自分が一生懸命に洗っても、そんなに氣に入らないのなら、何も苦勞して洗って等やる必要はないと思って近所へ行ってそのことを話してしまったのです。ところが、真相はどうだったのかと申しますと、弟さんが帰って来て見ると、風のせいでもあったのでしょ

うか、シャツが地面におちていたので、ひろい上げて見ると、泥がついてしまっている。そのままかけておこうかと思ったが、亦姉さんに洗ってもらう事も氣の毒だなと思って自分で洗って、元のところにかけておいたという事だったので。

ここで考えて見ますと、弟さんは氣の毒だと思って洗い直したのに、片方は氣に入らないから洗い直したと受け取ったのです。世の中には悲しいかな、すなおに、ありのままに物を観ることが出来ずに、ヒガンだリユガンだりした見方をして自分の立場を不幸にしましう人々が、まだまだ多いのです。いえ、人事でなしに、この私共も或はその中の一人かもしれないのです。

私共は人の非をせめる前に、自分があやまって人を傷つけ人を悲しみにおとしめているかもしれないということを静かに省る必要があると思います。

そこにこそ、仏の法——仏の教が必要なのではありますまいか。私共がすなおに自分を

見つめられ、お互も亦 すなおな心で拝み合あえる道、——そうしたお互の暮らし方の中にこそ本当に幸を感じ、悦んで生きて行かれる道が出てまいりますために、大切な仏の教えがあるのだということでもあります。

それでは端的に申して一体どう心がけたらいいのだということになります。善導という方が支那におられました、この方は「慈心を以て相向い、仏眼を以て相看る」と申されました。一口で申せば、仏の心をもって心とするということでもあります。これがお互に幸に生きる生き方の土台であります。けれどもお互に仏の心とは反対に鬼の心にもなりたがりますし、忘れたり軌道から外れがちにもなります。そこで法然上人は、つねに仏を念ぜよと申されまして、私共のために念仏の行を教えて下さったのであります。先程、私と共に唱えて下さいました念仏の中から大事な生き方の土台が与えられていることを胸にしまつて今日の御法事からおもち帰り下さるようお願いいたします。

三分間法話

その四



道 路

マリオンに連れられ、或いは親しくなった友人達に連れられてあちらこちらとドライブして感じて感した事は、絶え間なく走っている沢山の車が整ぜんとして走っている事である。道路は中央に太い線でしきりがある。パークウェイ、ハイウェイなどは中央にひくいくがしてある。走り方は日本と反対で右側通行である。日本からあちらへ行った人あちらから日本へ来た人が最初皆これにとまどうと云う。そして日本でも最近クラクションをやたらにならす事は禁止され出したが、マリオンがドライブしてくれた延六千マイルに渡る旅行中、クラクションを鳴らしたのは二三回であった。広い道路が片方ずつ二三列に線が引いてある。各線の中を一定の間をおいて色とりどりの車が走っている風景を遠くより見ていると広い巾のベルトの上をおもちゃの車が機械的にぐるぐる廻っている様である。近よればスーッスーと風を切って走る音がするけれど遠方よりは音もなくするする動いているだけであるから小さい子供達に見せたら

さぞ喜ぶことだろうと思ったほどである。

黒ぬりの車はリンカーンとかキャデラックと云ったぜいたくな車だそうであまりみかけない、たまに赤ぬりのはでな車には黒人の人達がドライブしているものをみた。又広いハイウェイを右に左に前の車を追い越して行く物騒な若い男女のドライヴァーもいる。パトリールカーに追跡されて、両側の芝生地帯に車を止めて免許証をしらべられているのはよくみかけた。どこへ行っても道路の完備されていることには只おどろくばかりである。アメリカ全土を国道何番線、そして州道何番と立札がしてある。国道はアメリカのマークの中に番号がかいてある。州道は只の立札にかいてはあるがフロリダ州で面白い形の中に番号がかいてあった。きけばフロリダ州の形をとったのだそうであった。非常に分りやすい。西部のアリゾナ州で国道の立札が三本も一ヶ所に立っているのをみた。それは国道が集り又そこより各方面へ別れる分岐点になるわけである。幹線の途中から町へ入っていく時は次はどこと立札がしてある。そこへ行く人は車を最右端へ入れて走りその分岐点へ来たら

その道へ曲って行く。片側が三本（ロサンゼルスは四本）に線が引かれ分けられてある。前の車を追いこす時は左へ入りスピードをあげ又二列目の線へ入って走る。私はUターン禁止とかいてある立札をみてもし道をまちがえたらどうするのかしらと思った。或る日本の男の方がうっかり道しるべをみそこない次の町への入口に来てしまった時、右の端の線を走っていない時右へ曲ることが出来ない。次々と同じスピードで走っているからもしスピードをゆるめれば追突される。仕方がないから次の町への入口から右折し、ぐるりと廻って反対側の道を戻って行くより仕方がない。

泣きたくなってしまう事もあると云われたそうであるが事実その通りである。なれば見当が付き右端の線内を走っていればよいし、この先はどこと云う立札を注意していればよいわけである。

近郊の住宅街やショッピングセンターへ行く時はハイウェイと別に枝葉の様に道がありゴーストアップもある。ゴー、ストップの間に「歩きなさい」と黄色のサインが出るのにはおどろいた。おちついてあることが出来る

のでこれはよいと思った。郊外でこう云う枝葉の道から幹線へのり入れる時、各自が一度停車して、幹線を走っている車の中へ一台ずつのり入れて行くのはみていて気持ちがよい。右側の線内の車は大たいおそいスピードで走るわけである。

道路にはバイパス、パークウェイ、フリーウェイ、ターンパイク等々名前がついている。パークウェイにはバス、トラックは走れない。広告なども禁止されている。両側は緑化地帯になっていてまことに気持ちがいい。バイパスは日本と同じ市中の混雑さを防ぐ為、都市郊外を走っている。スピードは平均約六〇マイルで走る。日本で云うと一〇四キロ。四十キロで走れる日本の道の事を考えると二倍半の速度である。横の道から割り込むのは一台ずつ入らなければあぶないわけである。

たまたま一台が事故を起し急停車すると次に来る車がとなりの線へ急カーブして行ければよいがどの線も入るすきがない。そしてブレーキでもきかないとすると大変である。次々と二三台追突してしまう。そう云う事故は割に多いらしい。マリオンと夜レコードをき

いたりしていると森の彼方のハイウェイを走る車の音がスッスッと波の様にきこえて来る。たまたまギーとした音がきこえると「事故だ」と思わず顔を見合せてしまう。遠い所へドライブして行く時蝶がもし飛んで来ると、フロントグラスにビシャとたたかれたようにはりついてしまう。車の速度でよけるひまなくベシヤッと張りついてしまうのである。ガソリンを補給すると必ずふいてくれるのは長距離を走って来る車に蝶がへばりついてるからである。ガソリンスタンドには御不浄がある。そしてお客様には無料であって長距離ドライバーにはまた便利なものであった。

クローバーリーフ

アメリカ全土を東西南北に国道があみの目の様に作られている。国道一号線は東部の北から南のメキシコ湾につき出ている半島の先端キーウエストまでつづいている。そして、各幹線よりわきへそれる時大きく円をえがいた迂回した道がある。丁度四葉のクローバーの形に似ているのでクローバーリーフと名づけられている。

他にも形によつてダイヤ型とか二三名前がついている。広い国のアメリカならではと思う位悠々と大きな円をえがいている。ワシントンを出てからフィラデルフィアへ入る時、そのクローバーリーフに入った時あまり大きくグルグルと廻つて走るので、道路の標示になれた私も又逆もどりかしらと錯覚をおこした。しかたがないので太陽はどこかなと窓から空を見上げ、太陽の位置によつて行くべき方角を見定めた頃マリオンは別の幹線にも入りこんだところであつた。星をたよりに砂漠を旅行する話を思い出し一人でクスクスと笑つたものである。空から撮影されたクローバーリーフは実に見事である。

道路の立札

至る所でみる立札は実にはっきりとかかれていて慣れると道の番号も私でさえ分るようになった。ドライヴァーの為の地図は自動車の国だけあつて実に沢山あり、精しくかいてある。「今度は何番線どこへ行く」ときけば私にも「ああこの道ね」と云う様になつた。一つの州を越える時「ウェルカム何々州」と大きく道の両端にまたがつてかかれてい

る。目的の州へ入つたのだと分り易い行届いた立札は道しるべだけではない。

「かみくずかごあり」「休けい出来る所あり」「ガソリンスタンドはこの先に」「一マイル先に電話あり」と云つた立札が次々と立てられてある。長い道中坦々とした平野の中の一本道と云つたところではドライバーも疲れて眠くなる。ふとみると「眠つては危険」と大きくかいてあるのをニュージャージー州から南部へ行く途中の州でみた事がある。一人で夕方モーテルへつくまでドライブしていは眠気をもよおす。田舎道や山の崖の処を通る時「鹿がいます」と云う立札をよくみた。「家畜がいます」と云うあたりでノソノソと二三頭牛が出て来る所へ丁度走り過ぎたとたん、マリオンは「アッ」と声を上げた。危く牛にぶつかる所であつた。私は「牛をひいてしまったって向うが悪いのでしょうか。牧場の人が注意すべきだわ」と云うと「とんでもない。もしけがでもさせたら罰金が大変だ」とマリオンが云う。「へエー不合理ね。牧場主の方で気をつければノコノコ牛も出て来ない

でしょう」と云つたが規則は別らしい。この時ばかりは冷汗をかいたマリオンであつた。勿論牧場にサクは作られているけどたまに道路へすき間から出て来る牛もいるわけである。道をよこぎる鹿は私は一度もみなかった。「ディアー」と云う立札は沢山みたが「オーディアー」となげいたのは鹿ではなく牛であつた。

車の洪水

丁度ニューヨークが河の向うに見えて来たニュージャージーでの事である。ハドソン河にかかる大きな橋にさしかかる前から、日曜の事ではあり車が次々とたまりにっちもさっちも行かなくなつてしまった。この事を知っているマリオンはハバフォード大学を出てから心がせいていたらしい。この洪水になる前に橋を渡つてしまいたかつたのである。国道をスピードを上げ走つては来たものの、マンハッタンの灯がみえているのに車はそのどまん中へ入つてしまつたのである。引きかえす事も横へそれる事も不可能である。各線とも車が一杯である。少し動いたと思うと三四分

停車、牛の歩みよりのろい位、いやのろのろも動けないのである。こんな時あちらの人はよく一人言を云って不平をぶちまける事を知っていた。私は「まあまあ落付きましよう。シカタガナイもの」とマリオンに云うと「治子と一緒にだからイライラもしない」と笑っていた。私はふと「急病人とか、お産気づいた人がもしいるとしたらどうなるの？ 火事でもあったらどうするの？」ってきいてみた。

「急病人の場合はヘリコプターで運ぶより致し方ない」と云う、火事の時は、もうシカタガナイそうだ。「車に頼りすぎる悲劇ね」って笑ひ乍ら云うと「車があるからこんな大旅行出来たんでしよう」ってやりかえされてしまった。

車は一步前進、四五分停車である。ふだんなら私はノイローゼになり、行きたくもないのに、洗面所へ行きたくなかったり、首や手に冷汗を出すくせがあつたけれど、こんな風にそこにじっとしているより仕ようのない時は幸せな事に何ともなかったのは本当によかつたと今考えると冷汗ものである。

ぎっしりとおつまりにつまった車の洪水の中

にじっとしている事は三十分位であつたかしら。警官が手ぎわよくさばいてはいたものの途中でこれが原因だったなと思つた二三台の故障している車をみ乍ら橋を渡りブロンクスへ向うハイウェイへようやく入れた時、ちょ



ジョージ・ワシントン・ブリッジを渡る
所の幹線道路。

うちん行列の火が数本の線となつて流れていく様に車のヘッドライトが何本かの線の流れを作り出して夜のハイウェイを浮き出していた。

ニューヨークを去る時、高安さんからロサンゼルスへ行ったら車の早いのにびっくりするでしようと言されたが、ロサンゼルスは道路の広いのとスピードの早いのは有名らしい。六十マイル位で走っているわけに行かないのである。後からせき立てられるわけである。パトロールも車ではなく、鉄カブトの様なものをかぶりオートバイへのついていた。スピード違反する車に、同じ様な車で追跡していたら間に合わないからオートバイで車の間をぬって追いかけるのだらう。パトロールがオートバイへのる処は車窓よりみかけたが実際にしつくする車の間をぬいつつ追うのはみなかった。

フロリダへの途中、綿島の多い州を通つた時、或る町でマリオンは「この町はスピード違反を摘発してその罰金で十分に町の収入がとれるので一般の人の税金は安いそうさ。ここを走る時は皆気をつけなければ」と云っていた。そのすぐあと町を出た処で「治子パトロールが来る」と云うマリオンの声におどろきふりむくと確にあとに一台ついて来ている。一寸前にも他の車がとめられていた

のをみたばかりである。マリオンはスピードを出してもいないのにと、すなおに車を止め降りて行った。サイレンは鳴らされてなかったから他の車ではないのかしらと私は思っても、ヒヤヒヤしてしまった。暫くするとマリオンは笑ひ乍ら戻って来た。「どうして？」といそいできく私に、警官が「貴女の車は私がメーターをはかっていたら六十マイル一寸出てましたよ」(その辺は六十マイルで走る規則らしい)と云ってライセンスをみて、「貴女のですか？」と念を押したそうで、「確に私のです」と答えたら「御若く見えますね。気をつけて下さい」と云ったとかでマリオンとんだ所で若く見られたわけである。そのあと、ガソリンスタンドで会った一老婦人中々気どっていた人であったがこの人が又つかまっていた。実にきびしい、そしてそれを見乍らドライブして行く私達のとたりをずっと全速力で走りぬけた車があった。見れば今しらべられたばかりのあの老婦人である。「オ、マイ、グッドネス」とマリオンも啞然として又すぐにつかまりはせぬかと私達の方ではらはらしていた。きつとしゃくにさわって逆に

スピードを上げたのにちがいない。すっすっ和其他の車を次々とぬいていつの間にか私達の視野から見えなくなってしまった。暫くして、道路の両側の樹木と草むらに黒いバトカーがかくれているのが私の目に入った。「マリオン、バトカーがいる」と急いでささやいた。スピードは出していなかったからよいものの知らないでスピードを上げて走って来る車をストップさせるのには絶好の場所であった。その州全体は他の州から来るドライバー達にとり鬼門である。

南部の州や西部のアリゾナの砂漠地帯を通る時、処々レーダーがある。レーダーによって速度違反を発見するのだそうで高い鉄柱の上におかれた円板のレーダーは砂漠地帯を走る私達一台の車にも空中から監視しているのである。

(マリオンがよく「チケットをとられる」と云っていたけれど、どう云う風に規則違反をした時チケットをとられるのか、私には分らなかった。最近日本でもチケット制になると云う記事をよんで初めてうなづけたのである。チケット制はアメリカ

の制度と同じらしいので精しくかくことを控える。)

ボストンへ

十月二十九日のひる過ぎ、いよいよボストンのジョンの家へと向けブロンクスビルを立った。ニューヨーク州からコネティカット州へ入る途中は実に気持よい風景である。パークウェイと云って緑化地帯とも云おうか、両側ともよく手入れが届き広告は絶体許されない。トラック、バスは他の道路を通る。ここらは広いアメリカであるから出来るので、せまい日本では考えられない事である。ボストンへ入るまで、クロスカントリーパークウェイ、ハッチンソンリヴァークウェイ、メリットパークウェイ、ウイルバークロスパークウェイ、マサチュセッツ、ターンバイクと云う名前がつけられている道路を次々と走る。アメリカへ来る前に遠視と乱視と入っている私の目にマリオンのとなりへこしかけると、目が疲れるのではないかしらと案じていたけれど、とんでもない。全然疲れないから不思議である。スピードが早いけれど道巾が広いの

と目に入って来る景色が美しいので目も疲れ
ないし気分もよい。

ボストンへの途中、大きなスーツ工場へ寄
った。全米へ送り出す婦人のスーツを作っ
ているのである。マリオンはこのコネティカッ
トにある工場へよくスーツをたのむと見え、
皆顔見知りである。

アメリカの洋服の裁断がすばらしいとき
いていたのでそのカッティングをする部屋へ
つれて行ってもらう。一度にカットするその
あまりを婦人会の方に見せて上げたいから小
さい処をくれませんかとのんでもらう。日
本へ参考にもって帰えると聞いたマネーシャ
は喜んでこれではあまり小さい、こちらの方
を上げましょうと云って、ワイシャツを入れ
られる位の箱の大きさを包んで、何卒と云
って下さった。有難いけれど一寸大きすぎる。
でも厚意を無にしたくないので、頂いて来
て、マリオンに別送してもらおう事にした。帰
国して皆さんにお見せすると、見事に裁断さ
れた何枚かのウールをたん念に数える方がい
て「百枚よ」とびっくりされていた。ここは
ユダヤ人経営の大きな工場であった。各部に

分れてユダヤ系らしい婦人達が、持ち場持ち
場でシシユウをしている処。裏地をつけてい
る処等々で、働らいていた。

ボストンへ着いたのは町に灯りがつく七時



マサチユセツ・ターンバイク

半頃であったからしら。ニューヨークから、
まっすぐドライブしてくれば四時間かかるそ
うである。初めての長時間のドライブではあ

ったが快く楽しいものであった。

その上、背の高いマリオンと並んでこしか
けていては短い足の私は疲れれると思つてマリ
オンのとなりにチョコンとすわりこんでしま
った。帯もチョッキリと結べる半巾の帯をし
め、車を降りる時の為半羽織をもっていたの
で帯も苦にならないし車の中はすわっていた
ので至つてらくにドライブ出来たわけである

ジョンの家

ジョンは車で着いた気配に迎えに飛んで出
て来た。玄関の戸を開けた所のつきあたりに
何年か前のクリスマスに送ったかけ軸がかか
っている。お客を迎える心づかいは人それぞ
れ差はあるけれど、日本に来て知合った頃か
らジョンは何か一般の人とちがうものをもつ
ていた。招じ入れられた客間には火鉢にアメ
リカ製ではあるけれど、日本のに似ている炭
がおこしてあつて鉄びんがかけてある。そし
てこれも又昨年送った茶わんと急須とがちゃ
んとテーブルにおかれ私達の到着を待ってい
た。北欧に、或いはアフリカ、オーストラリ
ヤとか世界中を旅行したジョンは方々に友人

をもち方々からその国、独特のものをもちかえり部屋にかざつてある。そして各国の友人を心あたたく迎えるにちがいない。おせじをべらべら云う人も多けれどあまり口数をきかず、心をつかい人を迎えるあたりは本当のお茶人が、招くお客の好みによつてかざりつけまで心をくばつて迎えるのと同じである。ハワイに今居られる松濤さんがハーバー

トに留学中ジョンに紹介の手紙をかくと、松濤さんの居る所が分らないと云つて方々を探してくれたものである。そして連絡がとれると、この部屋へ招いて上げてくれたのである。肌の色言葉そして習慣にちがいはあつても、友情や人の誠意は世界に通じることを泌々と感じるのである。心あたたまる思いで椅子にはっと腰をおろすと、「お茶を入れてみて」と私がお茶の葉の分量やお湯をさすあたりをじつとみている。長いドライブの後のお茶は特別おいしかった。夕食の時テーブルにお料理をならべ、ローソクをたて電灯を消してから、ジョンは「治子、貴女はお客様でも友人でもない。私達の家族の一人ですよ。だから気らくにくつろいで下さい」と云う。

好きなレコードを静にかけ、何本かのローソクの灯のゆらく三人きりの食事にふとそう云うジョンのあたたかい言葉にグッと胸が一杯になつてしまった。前にかいた様な事から親しくなつた私に、何のごちそうにもまさるこの友情の深い言葉、何で涙なくしていられよう。答える言葉もなく、大きくうなずくばかりであつた。

心こまやかな、この姉弟の私への心づかいは国境を越えての交際にますます深いものを与えてくれるのである。食後、レコードのリストが整理して入っている小さな箱を好きなものをえらんでと手渡ししてくれる。マリオンと私は長椅子にくつろぎジョンは床のジュウタンの上にねそべつて、たき木をだんろにくべ、そのもえる火をみつめ乍ら、電灯も消し、レコードに耳をかたむける三人であつた。そうそうここでジョンは初めて日本へ来た時とつたスライドをうつしてみせてくれた。むらさき色のしほりの着物をきていた私や家族の写真など十六年前の私達が大きくうつし出され、白髪になつた今を考えるとつかしいものである。そして私を出迎えに来る

時ドライブするマリオンの横で飛行場へ来るまでのニューヨーク市内が八ミリでうつし出されて行く。飛行機から降りて来た私が子供さんの手をひき、屋上で私をニコニコとみ守っている二人に手をふり、タラップをおりる所、そしてあの留学する学生さんが私の小さいカバンを持ってきてそばに立っている所など次々とうつて行く。ハドソン河を下るあの遊らん船でお父さんとエリザベスと二人であちこち説明して下さるのをあちらこちらをみたりしている私の顔、「ジョンが初めて見物に来たようね」とからかつた私にこうしてみせたいと思つてあんなに船の上を行つたり来たりして、八ミリをとつていたことが分つたのであつた。

今はカンサルテイニングエンジニアとして大会社の中堅社員として活躍しているジョンも笑う目もと、口もとには学徒動員で日本に来た頃と少しも変つていない。迎えてくれたジョンも迎えられた私も月日は十六年もたったけれど、変らないものは友情である。二人にかこまれて心からくつろげる私のボストンの第一夜はかくして更けて行くのであつた。

写真の紙表

おしやれな釈迦

奈良 室生寺

釈迦の降誕会と涅槃会は広く行なわれているが、成道会に関する行事は少ないようだ。人生において生死の問題は大事には違いない。しかしこれは中半運命づけられた、誰しも必ずたどる道であるだけに、もっと大切なものがある。それが正覚である。菩提樹の下で森を通して来る清い朝風を一杯吸ってさとしたその日こそ意義深い日である。

数年前、美術研究所で中国の画家梁楷の展覧会があった。その中、ヒゲをほうほう生やし、破れた衣をまとってはいるが鋭く目を輝かし、杖にすがって岩山を下りる釈迦の絵



があった。そこには言葉でいいつくせない異様なムードがただよい、観賞者の足をびったりと

奪った。芸術品といってしまえばそれまでであるが、作者梁楷の信仰的な心境がそうさせたのであろう。

目に入れても痛くないほど可愛い誕生仏をはじめとし、苦行して骨と皮ばかりになった釈迦、やさしく微笑みかけるもの、さては涅槃像まで、釈迦の作品は非常に多い。表紙の写真は奈良県室生寺の弥勒堂に客仏として祀られている木像である。

室生山は竜王信仰の霊場であった。平安時代の初期、奈良興福寺の僧賢璟と弟子の修円が室生竜穴神の神宮寺として建立し、興福寺の末寺となっていた。けれども近世に入ると興福寺の没落によって独立を進め、隆光の申請によって真言宗となり、女人高野といわれて栄えた。室生山まで辿り着く山道といい、山腹に点在する堂宇といい、小規模の高野山というところからこの名がついたと思われるが、なるほどと感心させられる。

室生寺の釈迦如来像は、一木造りのどっしりとした量感あふれるもので、平安初期の特色を具備してはいるものの、スマートで親しみやすい。立派な像だから何処かのお堂の本

尊だったと思われるが、彩色も剝落し、光背も台座も失なわれている。いや頭上の螺髪まですっかりとれている。柔和な顔に飄波式の衣文の表現はにくりしいほどよく合い、膝を低くして中半胸を張ったスタイルには、諸像に較べて重くるしさがなく、いかにも洗練された感じを受ける。このくらいオシャレな釈迦は他にないであろう。以前姿は知ることができないが、かえってこの方がよさそうに思われる。何処とはなしにロマンスグレーの品のよさがただよっている。そして梁楷の絵から受ける烈しい感じの釈迦が、社会に出て荒波にもまれ、すっかり角がとれて円満そのものの感じを強く打ち出している。

女人禁制の高野山の代りとして女人高野といわれ、祈りをこめた女性達を引きつけた室生寺の釈迦如来像としては、まさにうってつけの仏像である。交通の発達とPRの効果によって室生を訪れる人は多いという。緑に映える有名な石南花、皮膚をさす美しい水とともに、スタイリッシュなお釈迦様は、参詣者の有無を問わず、深い慈悲と限りない微笑を続けるであろう。

鈴木成元



近代高僧伝

慧力湛忍

大橋俊雄

尾張の農村に「一に幡秀、二に慧頓、三つ四つがのうて五に徳住」という俗謡が伝えられている。幡秀は西山脈の人で棚尾妙福寺の一代であり、慧頓は中山貞照院に住し、徳住は荒井山の九品院を董じ、ともに高德の僧として多くの人たちの信仰をあつめ、尾陽の人たちの尊崇のまとなっていた。その慧頓の弟子に湛忍がおられた。

彼は伊藤・伏原等と共に肩をならべるほどの名古屋の素封家岡谷惣助宗純の長子として文化十三年に生れた。普通ならば当然家をつぐべき身であつたけれども、不幸にして生れながらにして鼻が低く、そのため家業をつぐ

ということとは伊藤などの豪商との体裁からしても不都合な面があつたことや、幼ない頃大患にかかり父母の歎きと悲しみは一通りでなく、信濃の善光寺如来にお祈りして、若しこの子が万一回復することがありましたら、出家させ仏恩に報じたいと願われたために、病いえたのち、その約束によって貞照院の慧頓上人の門を叩いて、十二歳の時出家することになったという。彼は家名のために、其身を犠牲にして父母の立場と願いを聞き入れて喜んで出家の身となった。

出家してからというものの熱心に修行をつみ、傍ら近隣の子供たちをあつめて俳句をつ

くるのを楽しんでいたが、中に純善という子がいて何かと親交をかさね、手をたづさえてよく遊んでいた。このことを知った両親は、父母の手許からはなれて生活している子を不関に思い、この上は純善を朋友として仲よく手をむすんで修行に交遊につとめてもらおうとして、岡谷家の猶子として純善を出家させたという。

天保二年慧頓は後住を弟子天然にゆづり、湛忍や純善をつれて颯然と上洛し、北野の成等庵に移り、ここに居ること三年にして再び泉谷の西寿寺に移られた。湛忍は京都にやってきたことを殊更らに喜び、この機会に大いに學問を身につけておきたいと念願し、東山の智積院で性相や俱舎の學を究わめ、余暇には頼山陽について詩文を學んだ。その頃の浄土宗は宗乗はともかくとして、余乗にはこれという學匠もおらなかつたので、性相學をまなばんとする人は他山に出て教えをうけなければならなかつた。残念ではあるけれども致し方ない。しかし何としても京都に學寮を建てなければということで、篤學の人が集つてつくつたのが知恩院山内の勸學院であり、こ

こで彼は性相を講じ、時にその薫陶をうけたのが勤息義城であつた。嘉永五年二月には師懸頓のあとをうけて西寿寺二十六世の法燈をついだけれども、一諸に連れだつて上洛した純善は病を得て帰国し、此れより先き嘉永元年二月世を去り、すでに此世の人ではなかつた。しかし彼と純善との道交は終生かわることなくつづけられたという。

彼はどちらかといへば喧噪をきらい、静かに法味をたのしむといった風があり、閑さえあれば静かに念仏していた。そして時には弟子や道志のために宗乗を講述されもした。昌光律寺の志運や最嚴律寺の円海、白旗弁智もその一人ならば、賢良も弟子として講義を聞かれた。これ等の人たちは師の衣鉢をつぐにたるべき、すぐれた学者であつたが、賢良が湛忍のあとをついで西寿寺に住した頃、賢良は今の日本は廃仏毀釈の荒波におびやかされ、その波は泉谷にもおしよせてきている。ここらで思いきつた改革をしなければなるまいということ、お寺と本山を一本建てとし、末寺の財産のことごとくを本山におさめ、末寺は本山から扶持をもらつて経営する

ようにしたらどうかという意見を出し、自からその理想を実現するために率先して西寿寺の財産を本山知恩院に寄進されたが、他の寺院でこれを実行するものが殆んどなかつたために、彼の考えは実現されずに終つてしまった。そのほかヨーロッパの文化をながめてみると、日本の文化よりもすぐれている。日本の文化の良いところもあるけれども、何といつてもヨーロッパは日本よりも一歩先きんじている。このままでは、西洋文化のためにおされてしまふだろう。そうならたら大変だ、こちらから西洋文化の良いところは大いに摂取するようにつとめなくてはならない。大いに西洋の文物をきわめたいという熱意にもえ、やがてはアメリカに渡るつもりで、東京に出、駿河台のニコライ堂に入つて外国語を学んだほどの、非常に進歩的な人であつたが、滞京中赤痢にかかつて明治九年四月なくなつてしまった。

岡谷家は丹波国の篠山から出て名古屋に移り、はじめ笹屋といった豪商であつたが、代々仏に帰することあつく、父宗純の如き資性剛毅すこぶる家業に精出し、酒をたしなむこ

と人一倍であつたけれども、仏事の修行にあつては一滴も酒を口にするのがなかつたというほどの信念の人でもあつた。湛忍は時折故郷に帰つて、親族や知人たちを集めて、仏書を講述して信根の培養につとめたこともあれば、祖先の系統を丹念にしらべて黒谷に碑をたて追福を修し、又家訓をつくつて家人にあたえたこともあつた。このようにして自からは身をつつしみ、出でては多くの人に仏の道を説き、生き仏としてあがめられ、その高德を伝え聞いた人たちによつて、是非大本山清浄華院の後住にとすすめた人があつたけれども、名聞利養は好むところでないといつて固辞してうけなかつたという。岡谷家では彼の出家にあつて、仏門に入つたからには生涯不自由な思いをさせないことを約束され、明治五年病にかかつてからは岡谷の別荘三荷庵に入つて静養し、命終にのぞんでは看護の僧に六時礼讃の式をもつて別時を修せしめ、遺命を嘱して来迎をまちながら、五十六歳の身をもつて七月十一日示寂せられた。法名は柔蓮社順誓勇阿湛忍慧力和上。

浄

土

宗

入

門

最終回

往生と念仏と現世

戸松啓真

(大正大学助教授)

仏教は老人にとっての信仰だという。それもよろしい。若い者も必ず老人になるのであるから。仏教は葬儀追善の仏教だといわれる。これもよろしい。人はだれでも必ず死に、死者をまつるのは人間の真情であるから。仏教は生きてゐるわれわれに意義あるものでなければならぬという。勿論大いによろしい。これこそ釈尊成道の目的であり、また人間の煩惱や苦悩は無尽であるから。それ故に仏教は全て死の問題だけでなく、出離生死というように生死を問題としているのである。

彼等は仏教をどのように考えているであろうか。「私達の仏教に対する考え」との見出しで次のようにのべている。

はどうであろうかといひ実態調査の結果が次のように発表されていた。

◆宗教を信じているか

信じている 14%

信じていない 86%

◆宗教に関心があるか。

関心がある 47%

関心がない 53%

◆宗教を必要と思うか。

必要と思う 43%

否 57%

◆死後どうなるかと思うか。

わからない 38%

すべて終り 15%

来世を信ず 7%

それが高校生の信仰についての実態であると発表している一部を参考までにあげてみる。

さて今の若い人々が仏教をどのようにみているかの一例に駒場高校生が各宗をたずねて自分らで理解し学内のアンケートにより、こ

考えない 7%

無解答 32%

◆宗教によって何か解決したことがあるか

ある 44%

否 53%

◆宗教によって何かを解決すると思うか

思う 43%

否 53%

わからない 4%

◆どんな事が解決されると思うか

1、安心感をいただく

2、精神的肉体的の疲労の解決

3、対外関係、その他

これらの発表には若い人々の考えがよく出ており、若い人なりの真面目な考えが感じられる。若い人といえども生死の人間であり、宗教とは決して無縁ではないのである。ただ彼等にとって仏教のころもが、いかにも古めかしいというだけである。かつて一高の秀才藤村操が人生不可解の五字を残して日光華嚴の滝に身を投じて生命をたったように、十代の若者達に純粹に死とか人生の目的を考える傾向は、昔も今も変わらないようである。ただそ

れに処する態度が現代は非常に現実的になったようである。そこに時代の相異が見られるのである。また彼等にとって生死の問題その他を宗教で解決しようとする気持の者があるが、その場合「信ずる」ということが大きな壁になるという。これはわれわれにとっても仲々むずかしいことである。善導大師は、

「自ら信じ人をして信ぜしむるは、難中
転た更に難なり」

といわれている。しかし宗教はどうしてもこの門を通らなければならないのである。この壁を破らなければならないのである。それ故に智度論「仏法的大海には信を以て能入となす」といい、法然上人も選択集に

生死の家には疑を以て所止とし、涅槃の城には信を以て能入とす

とのべている。しからばこの壁をいかにして破るのであろうか。各宗それぞれの法があるう。浄土宗に就ては念仏の実践によるのである。法然上人の教えを聞いてその弟子となつた親鸞聖人は、

親鸞におきては、ただ念仏して弥陀にたすけまいらすべしと、よきひと（法然上人）のお

お世をこうむりて信ずるほかに、別の子細なきなり。八歎異抄V

といわれている。法然上人は往生ということも、われわれがそれをきわめる智慧や、財力のありなしによって、定まるのではなくて、ただ信心の深いか浅いかによるのであるといわれている八十二箇条問答V。しかもこの信とは念仏を申すことなのである。

念仏思想については古来種々の經典や昔の祖師方によっていろいろと説かれてきて長い歴史があるのであるが、それは別の機会にゆずるとして、浄土宗の念仏は、善導大師や法然上人によって強調された称各念仏であつて、口に南無阿弥陀仏と唱えることである。

法然上人はこれを選択本願の念仏、三心具足の念仏などといわれた。三心というのは、至誠心（まことの心）、深信（深く信ずる心）廻向発願心（凡てのことを往生極樂のためにふりむける心）であつて簡単にいえば、心に助け給えと念じ口に南無阿弥陀仏と申すことである。三心とは要するに心の持ち方であつてふたしかな心で申すのではなく一生懸命に申すのである。しからばやがてその念仏は、よ

ろこびの中に申せる念仏となるのである。この念仏というのである。しかもこの念仏は、われわれが、自分の力で一生懸命努力して信心の壁を破り往生を得るといふようなものではないのである。われわれ凡夫の力などは信仰の世界でいえば、たかが知れているのである。われわれの煩惱一つ自田にならないではないか。またこの念仏により救われるというのは、それが選択本願の念仏だからである。

この念仏は、仏の大慈悲心によって衆生救済のためにおこされた念仏であり、簡単にいえば「いかなる人間もみな助けてやるぞ」という念仏である。法然上人はこの本願の念仏をわれわれのためにえらばれたのであり、この念仏が絶対価値を有するのは仏が選択された念仏であるからである。それを本願他力の念仏というのである。それ故、法然上人は

念仏は、弥陀にも利生の本願、釈迦にも出世の本懐なり。△津戸三郎へつかわす御返事△
といい、浄土宗の第二代の弟子聖光上人も念仏はこれ阿弥陀仏の本願なり。念仏はこれ釈迦仏の説教なり。念仏はこれ六方諸仏の証誠の実語なり。△西宗要△

とのべておられる。念仏は衆生の申す声であるけれど、その念仏をわれわれが数多く申す効果によって往生を成就するというようなものではないのである。かかる念仏は自力の念仏であつて三心具足の念仏、本願の念仏とはならないものである。従つて往生の業とはならぬものである。法然上人は三心具足の念仏を次のようにのべられている。

阿弥陀をたのみたてまつりて、すこしもうたがう心なくしてこの名号をとらうれば、あみだほとけかならずわれをむかえて、極楽にゆかせ給うと聞きて、これを深く信じて、すこしも疑う心なく、むかえさせ給えと思ひて念仏すれば、この心がすなわち三心具足の心にてあれば、ただひらに信じてだにも念仏すれば、すすろに三心はあるなり。△七起条の起請文△

前にもものべたように、本願の念仏は「必ず助けてやるぞ」という阿弥陀仏の声なき声である。われわれはただ心に助け給えと念じ、口に南無阿弥陀仏と唱えるばかりである。おのれの行をつんで往生するなどはゆめ思うべからずである。法然上人のいわれた称名念仏

は、自力の行ではなくて他力の念仏である。他力の念仏であるから、生涯かけて念仏申すものも、わずか一念十念申す者も、必ず往生するのであり、それ故に易行といふのである。易行といふのが、われわれの行として唱え易いというだけならば、真の易行ではない。称名が易行といふのは、仏願力に支えられたものであるから易行なのである。従つて自力他力といふのは数の多少によるのではない。それ故に信の一念のみが他力で、多念相續が自力であるといふのはあたらないのである。それはただ仏の願力をたのみ、他力を仰ぎたのむ心で申すか否かによるのであり、数の多少によるのではない。これについて法然上人は次のようにのべている。

念仏のかずを多く申す者を、自力をばげむという事、これまたものもおぼえずあさましきひが事なり。ただ一念二念を唱うとも、自分の心ならん人は、自分の念仏とすべし。千遍万遍を唱うとも、百日、千日、よるひるはげみつとむとも、ひとえに願力をたのみ、他力を仰ぎたらん人の念仏は、声々念々、しかしながら他力の念仏にてあるべし。されば、三

心をおこしたる人の念仏は、日々夜々、時々
剋々となうれども、しかしながら願力を仰
ぎ、他力をたのみたる心にて唱えいたれば、
かけてもふれても、自分の念仏というべか
らず。

八七箇条の起請文V

さて法然上人はわれわれ凡夫が「本願ニ乗ズ
ル事ハタダ信心ノフカキニヨルベシ。」と小
消息でものをべておられるのである。そして淨
土宗では前にのべたように、この信心は念仏
の實踐を通しておこるのである。信とは念仏
を申すことであるといったのは、この意味で
ある。それ故に法然上人は、同じく小消息の
中で善人であろうと悪人であろうとわれわれ
人間凡夫は、

行ハ一念十念ムナシカラズト信ジテ、無間ニ
修スベシ。一念ナオウマル、イカニイワンヤ
多念オヤ。

と凡夫なるが故に念仏の實踐を生涯続けるべ
きことをすすめているのである。要するに法
然上人は、たとえ仏の大願にあうといえど
も、もしわれわれがそれを信じなければあわ
ないのと同じである。たとえ心に信じていて
も、これを行わなければ信じないのと同じで

あるから、行ずることが正しく信であるとい
うのである。それについて、法然上人が弟子
達に常に仰せられていた御言葉として、次の
ものが四十八巻伝や九巻伝に収録されて伝え
られている。

名号をきくというとも信ぜずば、きかざるが
如し。たとえ信ずというとも、となえずば信
ぜざるがごとし。ただつねに念仏すべきなり。
このように法然上人は往生のために念仏の相
続をすすめられたのであり、自らもまた生涯
かけて念仏の行をわがいのちとし實踐された
のである。それは、念念相續して畢命ひつめいを期と
する者は、十すなわち十生じ、百はすなわち
百生ずということをもつて実行された生
涯であつた。従つて上人は平生の念仏を重ぜ
られたのであり、臨終の念仏か平生の念仏が
ということとは問題ではないのである。それ
故、平生の念仏も、もし死が突然やつてくれ
ば臨終の念仏となり、臨終の念仏も、いのち
がのびれば平生の念仏となるといわれたので
ある。八念仏往生要義抄V

このように法然上人に於ては、行住座臥を
えらばず、時処諸縁を論ぜず、念仏を申して

往生を期したのである。いわば全生活の基調
になつたのが念仏であり、現実の生活の中に
念仏が生かされ、かえつてまた生活が念仏に
支えられたのである。これは出家者の生
活ばかりでなく在家者の日常に於ても同じで
なければならぬ。われわれは生きるため
に、日常のいとなみをしなければならぬ。
現代はせわしい世の中である。このようなわ
れわれにとって念仏往生を期する念仏の實踐
と日常の生活とは、如何に交錯するのであ
るか。また日常の生活に往生は如何なる意義
をもつのであろうか。

これについては、法然上人と弟子の禪勝房
との問答が和語灯録の中に伝えられている
が、そこに往生極樂と現世の過し方について、
現代のわれわれにとって大變示唆にとんだ応
答がある。即ち後生は、これまでお聞きした
ように弥陀如来の本願をひとえにたのみ奉る
から、往生疑いなしと思うのであるが、さて
現世はどのように思つたらよろしいのである
うか、と禪勝房がたずねられた。それに対し
て法然上人は次のように答えられている。
現世をすぐべきようは、念仏の申されんよう

にすぐべし。念仏のさまたげになりぬべからん事をば、いとい捨つべし。一所にて申されずば修行して申すべし。修行して申されずば、一所に住して申んべし。ひじりで申されずば、在家になつて申すべし。在家にて申されずば、遁世して申すべし。ひとり籠居て申されずば、同行と共に行じて申すべし。共に

行じて申されずば、一人籠居て申すべし。自力にて衣食かなわずして申されずば、他力にて他人に助けられて申すべし。他人の助けにて申されずば、自力にて申すべし。念仏の第一の助業米に過たるはなし。衣食住の三は念仏の助業なり。よくよくたしなむべし。妻を儲くる事、自身助けられて念仏申さん為也。念仏のさまたげになりぬべからんにはゆめゆめもつべからず。従類眷属もかくの如し。所知所領を儲けん事も、そうじて念仏の助業ならば大切也。さまたげになるべくばゆめゆめもつべからず。すべてこれをいわば、自身安穩にて念仏往生をとげんがためには何事もみな念仏の助業也。三途に帰るべき事をする身をだにも捨て難ければ、かえりみはぐくむぞかし。まして往生すべき念仏申さん身をば、

いかにもいかにもはぐくみもてなすべき也。かりそめにもゆるがせにはすべからず。能々いたわるべき也。念仏の助業ならずして今生の為に身を貪求するは、三惡道の業となる。往生極樂のために自身を貪求するは往生の助業とはなる也。

この一節は上人の語られた中でも、現世と念仏について在家者出家者にもに通ずる心構えが具体的にのべられている点で注目すべきである。要するにこの世で生活していくには、念仏の申しやすいようにして、生活してゆくべきであるというのが根本である。それは全生活の基調となり力となるのが念仏であり、やがて死すべきいのちを大事にするということである。念仏往生を願う者も社会の他の人々と同じように生活し、利益を得て身をたて、妻子を養うこと即ち衣食住の生活の凡てが念仏を申すための助業となるのであるからこれは大事にしなければならぬ。いずれは死ぬべき身であつても、なかなか捨て難いから大切にするのであるが、まして念仏極樂に生れる身であつてみれば、かりにもゆるがせにしてはならないというのである。念仏者

の生活は今日を明日をゆるがせにしてはならないということである。

念仏者の生活とは、このように積極的な充実したものでなければならぬと思う。しかも現世に生きて現世にとらわれない自然なものではないだろうか。喜びあればよろこぶ。悲しみあれば悲しむ。そこから新しい力もわいてくる。有名な法然上人の次の御言葉は、恐らく晩年のものと想像するが、念仏往生を願う者の現世に於て至ることのできる最後の境地であろう。

いけば念仏の功つもあり、しなば浄土へまいりなん。とてもかくても此身には、思いわずらうことぞなきと思ひぬれば、死生ともにわずらいなし。

△四十八巻伝、常に仰せられける御詞▽

こころの歩み

修養ひめくり

のお申込みは

添付のハガキをご利用下さい。

編集後記

▽キューバ問題は一触即発の危機を感じたが、あわやという瀬戸際で急場が救われ安堵したが、それにしても危険なことである。米ソはじめ世界の指導者達は現代の戦争は全人類の破滅という歴史の終末を意味すること位は承知しているはずであるが、実際の場面に立つと歯には歯のむきだしの感情が表てに出て武力により制覇しようとする。世の指導者は如来宝前に直参して方の限界をさすると共に、もう一度人類の存在する意義を認識して、恒久平和の悲願を実現して欲しいものである。

▽今年の宗教界の動きは、創価学会の政界進出に刺戟

され、各宗派とも学会対策に大わらわ。しかし、単に消極的な食いとめ策のみ講ずるのでなく、実際にノイローゼにかかっている一般民衆を正しく導くことと、よろめさそうな権信徒をしつかり教化することの方が急務。本誌では、資料提供の意味で学界特集を試みた。竹中博士は宗教心理学の立場より新興宗教の解剖を試みてユニークな論を発表しており、この方面の研究者としてベテラン。座談会の出席者中、白幡憲佑氏は中外日報神奈川支局長で、かつて留学僧としてピルマにわたり、戒律厳しい仏教サンガの生活を身に体験した人、本誌教界トピックスの筆者。轟照次氏は中外的第一線記者で、とくに

創価学会担当で内部事情に精通。この三氏に佐藤密雄博士が参会、云う迄もなく、戒律研究の権威者で、ちかく「原始仏教教団の研究」という大著が刊行される。釈尊サンガは民主々義のふる里ともいわれるがを御期待。座談会も多士才々の語る行間を感じとってほしい。

▽毎年「浄土」も年の瀬を迎えると世間的な冷い風を感じるが、しかし本会を支援して下さる会員の篤志により徐々に上向いている。一層の御支援を懇願。

▽鋸山も秋風落葉として冬將軍のおとずれ愈々足ばや。ひかり輝く新春に期待し無量寿無量光の恵みの中によき越年を祈念しつつ。

(宮)

「浄土」購読規定

一部 定価 金五十円

(送料 六円)

会費一力年 金六〇〇円

(送料 不要)

浄土 十二月号

昭和十年五月廿日

第三種郵便認可

昭和三十七年十一月廿五日 印刷

昭和三十七年十二月一日 発行

定価 五十円

編集人 村瀬 秀雄

発行人 佐藤 密雄

印刷人 関 二三男

印刷所 新光社印刷株式会社

東京都千代田区飯田町一ノ廿一

発行所 法然上人鑽仰会

電話東京三三二局五九四四番

振替東京八二一八七番

高級アンチモニー美術工芸品創作

実物そのままの製品を

頒布品
記念品
御土産品

に

御用命を受け賜わります

——鎌倉大仏殿御用達——

大西物産株式会社

東京都台東区神吉町三五

Tel. (841) 1088

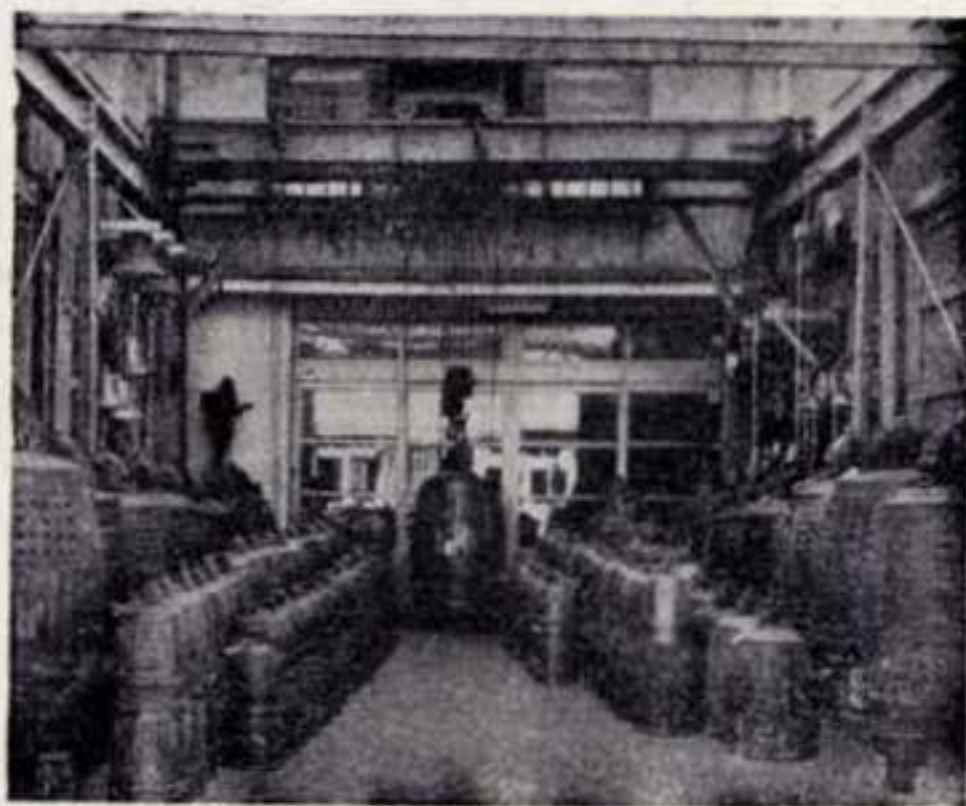
(871) 6024

浄土

第二十八卷

第十二号

定価金五拾円 (六円送料)



鋳物師 老子次右衛門

大阪市北区曹根崎町一丁目

大阪ヨリ十五分 (梅田新道大映横東へ一丁右側)

株式会社 老子製作所 大阪支店

電話大阪 040 8847番 本社工場 高岡市横田

日本一の生産・設備

梵鐘 (45cm~85cm)

在庫豊富

喚鐘 (12cm~51cm)

音響物理学博士青木一郎先生

梵鐘界の権威 日展参事香取正彦先生
芸術院賞受賞